

日専校に関する15の質問

1. 日専校の前身である「徒弟養成所」が創立されたのは、明治43年（1910年）ですが、日立工業専修学校と名称を改めたのは、いつでしょうか？
① 昭和3年（1928年） ② 昭和13年（1938年） ③ 昭和23年（1948年）
2. 寮歌と校歌は、作詞・作曲共に、日専校卒によるものです。さて、寮歌と校歌は、どちらが古いでしょうか？
① 寮歌 ② 校歌
3. 八紘ヶ丘（遥拝所）は、昭和16年（1941年）12月に、日工同窓会より贈られました。現在は、校舎前の丘にあります。何度か移転しています。今の場所は何回目でしょうか？
① 2回目 ② 3回目 ③ 4回目
4. 昭和39年（1964年）に科技高との連携教育が開始され、日専校卒の生徒も、高校卒業の資格を取得できるようになりました。この科技高の授業を初めて受けたのは、何回生の生徒からでしょうか？
① 50回生 ② 52回生 ③ 54回生
5. 技能五輪全国大会は、昭和38年（1963年）から、開始され、日専校卒業の先輩が、第1回目から出場しています。日専校卒業生が、国内の全国大会（平成30年（2018年）56回大会まで）に獲得した金メダルの総数は、何個でしょうか？
① 95個 ② 111個 ③ 122個
6. 令和2年（2020年）3月に卒業見込みの生徒数を含めて、卒業生の総数は、1万1009名です。さて、卒業生が一番多かった年は、50回卒、昭和40年（1965年）3月ですが、何名だったでしょうか？
① 188名 ② 293名 ③ 318名
7. 日専校の現在の土地の広さは、何坪でしょうか？
① 1万坪 ② 2万坪 ③ 3万坪
8. 日専校の部活で、現在は無いが、過去に存在していた部は、以下の中のどれでしょうか？（複数回答になります）
① ラグビー部 ② バトミントン部 ③ 柔道部
9. 日工同窓会館が建設された年は、いつでしょうか？
① 昭和28年（1953年） ② 昭和38年（1963年） ③ 昭和48年（1973年）

10. 日工同窓会報の第1号は、昭和4年(1929年)ですが、令和1年(2019年)7月までに累計で何号、発行されているでしょうか?
① 338号 ② 438号 ③ 538号
11. 日専校の前身である「徒弟養成所」は、芝内(現在の山手工場の一角)にありましたが、現在地の成沢へ移転したのはいつでしょうか?
① 昭和5年(1930年) ② 昭和15年(1940年) ③ 昭和25年(1950年)
12. 日専校の制服は、当初はいわゆる「ナツパ服」と呼ばれた青い作業服でした。これが黒の詰襟金ボタンに変わったのはいつでしょうか?
① 昭和7年(1932年) ② 昭和12年(1937年) ③ 昭和20年(1945年)
13. 日専校のグラウンドには、見事な桜が植えられています。この桜は、卒業生が苗木を学校に寄付したことに始まります。その寄付は何回生からでしょうか?
① 36回生 ② 40回生 ③ 45回生
14. 日専校の現在の専門科は、電気科、機械科、溶接科ですが、現在は無いが、過去に存在していた専門科は、以下の中のどれでしょうか?(複数回答になります)
① 化学科 ② 金属科 ③ 電子科
15. 熊野神社の境内に学校教育発祥地碑があり、碑石には馬場糸夫氏の揮毫で碑文が刻まれています。この碑石はどこで採取されたでしょうか?
① 笠間市 ② 高鈴山 ③ 宮田川

答え

1. ① 昭和3年(1928年)。その後、日立第一工業青年学校などに改名しましたが、再度昭和20年に、現在の校名に戻りました。
2. ① 寮歌。寮歌は昭和17年頃(1942年)、校歌は昭和32年(1957年)です。
3. ② 3回目。最初は、現在のプール水戸側の見晴らしの良い松林の中にありましたが、昭和26年9月(1951年)に、旧校門東側の梅林内に移転しました。さらに、昭和59年(1984年)7月に、現在地に3回目の移転を行っています。なお、「八紘ヶ丘」の命名は、高尾直三郎氏です。
4. ② 52回。昭和39年(1964年)に入学した、52回卒が科技高の第一号です。但し、当時は、卒業後も、さらに1年間、月1回、日曜日にスクーリングを受け、4年間で高校卒業の資格を取得していました。
5. ③ 122。因みに、銀メダルは168個、銅メダルは167個、獲得しています。
6. ② 293名。参考までに、平成以降、卒業生が一番少ないのは、91回、92回卒(平成18年(2006年)、平成19年(2007年)3月卒)で、共に41名です。
7. ③ 3万坪。因みに、校門から、機械実習棟の先まで300メートル強です。縦・横が約

300メートルの四角形で、約10万㎡=3万坪になります。

8. ①②③ 全てありました。
9. ② 昭和38年(1963年)。元の小平会館の直ぐ前にあります。当時の卒業生の資金カンパで建設されました。
10. ② 438号。発行から90年間に年間平均、約5号発行している計算になります。
11. ② 昭和15年(1940年)。なお、移転候補地は他にもあり、最終的に、現在の国分工場付近の八反原と成沢の2ヶ所に絞られました。
12. ① 昭和7年(1932年)。21回生から変わりました。因みに、昭和9年(1934年)には校旗も制定されました。
13. ① 36回生。昭和25年(1950年)春に、第36回の卒業生が研究科修了を記念して、苗木20本を寄付しました。その後、40回卒までの5年間にわたって、次第に本数を増やしていきました。当時の生徒たちは外部の指導を受け、下肥をやるなど大切に育てました。
14. ①②③ 全てありました。化学科は昭和42年度頃(1967年度頃)まで、金属科は昭和59年度頃(1984年度頃)まで、電子科は平成16年度頃(2004年度頃)までありました。一時期には応用電子科もあったようです。
15. ③ 宮田川。学校教育発祥地碑は、昭和35年(1960年)に、学校創立50周年を記念して、創業の地、山手工場熊野神社境内に建立されました。重さ5トンの碑石は宮田川上流で採取されました。碑文は馬場顧問が揮毫されました。また、碑に向かって左側には、同じく馬場顧問による説明文が刻まれています。なお、実際に徒弟養成所があった場所は、ここからやや北にあたる低地にあったようです。